

施設栽培イチゴのミツバチに対する農薬の影響について

イチゴの施設栽培においては、奇形果の発生を防ぐため、一般的にミツバチの巣箱が導入されている。

ハウス内で農薬を使用すると、ミツバチが死亡したり、訪花活動をしなくなる場合があるので、育苗時期から施設のビニール被覆時期までに防除を徹底し、開花が始まってから、病害虫を発生させないような管理を心がけることが重要である。

しかし、開花後に発生する病害虫に対しても、農薬による防除が不可欠な場合がある。

一般に、ミツバチに対する農薬の影響期間は、ミツバチの種類や巣箱の群れの感受性、ハウスの温度条件、面積等によって大きく異なる。また、ラベルに「ミツバチに対する影響」についての記載がない農薬も多く、薬害テストのような試し掛けも難しい。

農薬メーカーの資料等を基に以下を作成したので、参考としていただきたい。

1. 農薬のミツバチに対する影響

- ・一般に、殺虫剤>殺ダニ剤>殺菌剤の順で大きく、剤型では、粉剤>水和剤>乳・液剤の順に大きい。
- ・残効の長い農薬や臭いのある農薬は影響が大きい。

2. ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響

- ・たとえ影響の少ない農薬を散布する場合でも、巣箱はハウス内から移動させ、ハウス内をよく換気して散布液を十分乾かしてから（夕方に）戻す。
- ・ミツバチは一般に低温期（11月～2月）には、ハウス内でも活動力が弱くなることや、この間の農薬散布は春期の散布よりミツバチに与える影響が長期にわたる場合があるので、散布後の影響は必ずしも一定しない。
- ・この表に掲載されていない農薬については、ミツバチに対する影響が不明である。
- ・施設イチゴの場合と比較して、果樹園など大規模の場合は、ミツバチの行動習性も違い、一般に影響は大きくなるので、果樹園では、本表は適用できない。

3. 巣箱の設置・移動に際しての注意事項

- ・巣箱の移動は、農薬散布前日の夕方、ミツバチが帰巢してから行う。
- ・農薬散布のためハウスの外に移動させた巣箱は、日陰（適温：5～10℃）など涼しい場所で保管する。
- ・巣箱を再度設置する場合は、元の位置に確実に戻す。例え20～30cmずれていても帰巢できない場合がある（入口の位置が変わると一番悪い）。

4. ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響

影響のある日数	殺菌剤	殺虫剤
散布液が乾けば影響のない農薬	アミスター20フロアブル、硫黄粒剤、エコピタ液剤、オーソサイド水和剤80、カリグリーン、カンタストライフフロアブル、ゲッター水和剤、サンヨール、ジーファイン水和剤、ジマンダイセン水和剤、ストロビーフロアブル、セイビアーフロアブル20、ダイヤモンド、デランフロアブル、トップジンM水和剤、トリフミン水和剤、パンチョT F 顆粒水和剤、フルピカフロアブル、プロパティフロアブル、ベンレート水和剤、ポリオキシソルボン水和剤、ボトキラー水和剤、ラミック顆粒水和剤、ラリー水和剤・乳剤、ランマンフロアブル	ウララD F、ゼンターリ顆粒水和剤、チェス顆粒水和剤、テデオオン乳剤、デュアルサイド水和剤、デルフィン顆粒水和剤、ニッソラン水和剤、ネマトリンエース粒剤、粘着くん液剤、ファルコンフロアブル、プレオフロアブル、プレバゾンフロアブル5、ムシラップ、ロムダンフロアブル
1日（24時間）以上	アフエットフロアブル、アントラコール顆粒水和剤、イオウフロアブル、エコショット、オレート液剤、キノンドーフロアブル、サブロー乳剤、サルファーズル、サンリット水和剤、ジャストミート顆粒水和剤、スミレックス水和剤・くん煙顆粒、トリフミンジェット、ファンタジスタ顆粒水和剤、パンチョT F ジェット、ピカットフロアブル、ファンベル顆粒水和剤、フルピカくん煙剤、ベルコート水和剤・フロアブル、ルビゲン水和剤、レーパスフロアブル、ロブラール水和剤・500アクア・くん煙剤	アニキ乳剤、アタブロン乳剤、エコピタ液剤、オレート液剤、カスケード乳剤、コロマイト水和剤・乳剤、サンクリスタル乳剤、スターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル、ダニトロンフロアブル、トルネードエースD F、ノーモルト乳剤、バリアード顆粒水和剤、パロックフロアブル、ピラニカE W、フェニックス顆粒水和剤、フェニックスジェット、ベネビアO D、マイトコーネフロアブル、マッチ乳剤、マブリック水和剤20、モスピラン顆粒水溶解剤・粒剤・ジェット、モベントフロアブル
2日以上		アーデント水和剤、アフーム乳剤
3日以上	モレスタン水和剤	スピノエース顆粒水和剤、ディアナS C、テルスタージェット、マブリックジェット
4日以上		サンマイトフロアブル
6日以上		ベストガード水溶解剤
7日以上		ロディーくん煙顆粒・乳剤
10日以上		コテツフロアブル、マラソン乳剤
14日以上		アグリメック（14日）、アグロスリン乳剤（開花中は使用不可）、アディオオン乳剤（開花中は使用不可）、ダントツ粒剤（45日）、ベストガード粒剤（45日）